

会 議 録

かわにし事業ディスカッション2014（第3回）

開催日時	平成26年10月26日(日) 午後2時40分から午後4時10分
開催場所	川西市役所 7階 大会議室
内容	交通安全啓発事業の討論・まとめ
出席者	コーディネーター 清水 万由子
	メンバー (公募市民) 大塚 千恵子 岡田 忠純 小牧 満也 杉浦 一郎 藤本 美穂
	オブザーバー 石田行政経営室長
	市職員 西田まちづくり推進室長兼道路管理課長 川部道路管理課主幹 的場道路管理課主査
事務局	総合政策部 行政経営室 経営改革課 (内線：2110、2112)

会議経過

発言者	発言内容等
コーディネーター	<p>では、時間になりましたので、交通安全啓発事業を始めたいと思います。よろしくお願いたします。</p> <p>前回のディスカッションを振り返って、事業改善の課題が何かということですが、これまで道路管理課のほうで、幼児とか、その親にはうさちゃんクラブであるとか、あるいは高校生には学校のほうでかなり啓発している。小学校が主でやっている。成人に対しては、警察で免許更新のところで行っているということですが、中学生への働きかけとか、啓発というのは少し抜け落ちているということだと思います。</p> <p>それから、高齢者についてもこれから数が増えてくるということもあります。高齢者の自動車運転の問題もあり、今後に向けて高齢者への啓発というのも1つ課題であると思います。</p> <p>また、啓発を行っていくための体制です。道路管理課では、交通安全指導員の数がちょっと少ないということで、専任の職員も粘って行っているということもあるということなので、もう少し増員を考えられないかということで、問題提起をいただきました。皆さんに議論をいただきましたけども、主に中学生への働きかけということを念頭に置いたということもあり、啓発活動というのは、やっぱり日常生活の中に組み込まれるとか、その人のライフスタイルにあわせて何か日常的に気をつけるようなそういう機会をつくっていく必要がある。少数の指導員が直接1人1人毎日、働きかけるというのは無理なので、もう少し啓発活動を行う主体であるとか、動画を使うとか、いろいろな広告とか、キャラクターとか、漫画のようなものを使うとか、ちょっと多様にして、まず年代別とか、その人が使っている交通手段とか、あるいは地域によって自転車事故が多いとか、歩行者と自動車の事故が多いとか、そういうこともあると思います。その働きかける相手、対象となる相手に応じた啓発を行う、それが大事じゃないかというような意見が出たと思います。アイデアもたくさん出ましたが、基本的な出発点として、やはりその地域、エリアであるとか、平坦な市街地と坂道の多い住宅地と、全然交通事故の発生のタイプが違うと思いますので、そういったことをきちんと分析もされているということですので、そういった情報の啓発活動を行う主体なんかに提供しつつ、法律に基づいた啓発を行うべきではないかと、方向性としてあったのではないかとこのように思っています。</p> <p>もう少し具体的に誰が何をしていくのかということを集めてというか、深めていきたいと思います。表にしまして、縦軸に年齢、横軸に交通手段というのを置き、この表を埋めないといけないうわけじゃないですけども、1つものを考えるときの視点にさせていただいて、交通手段としては、自動車、自転車、歩行というふうにしたいと思います。公共交通もあるかもしれませんが、歩行に含めていただいて、縦の年齢として幼児というよりは親ですか、あと中学生です。小学生はどちらかに、幼児か、小学生かどちらかに含めたらとは思いますが、高校生と成人と高齢者というふうに、ざっくりですが分けたいと思います。枠を区切りましたので、中学生が自転車に乗るときに、自転車利用についてこういう啓発をしたらいいのではないかと、そういう感じでちょっと意見を出していただければいいと思います。課題と解決の方向性について、もうちょっとこういう点もあるとか、意見があったということがあれば、補足で出していただいても結構ですし、前回いろんな具体的な意見も出ました。すぐにでもできそうなこともあったかと思しますので、それをもう1度ちょっと振り返りつつ、提起をさせていただいてということをお願いしたいです。</p>

発言者	発言内容等
	<p>私のほうで、思い返していくと、若い人はやっぱりインターネットというメディアがかなり身近ですので、動画を使つての危険な自転車の乗り方とか、何か気をつけないといけないこととか、そういうのを啓発する話、あるいは漫画、漫画だとしていきやすいのではないかということ。あるいはコンサートとか、ライブとかのイベントにあわせてシミュレーターを使った体験です。もう少しそういうところにも力を入れていただくというような意見もありました。何かと抱きあわせてほかのイベントと一緒に便乗してやるという話です。</p> <p>それから、自分たちのサークルとか、NPOなどの自治会も含めて、何か自主的な集まりの中で講習会をやる。あるいはリーダーとなるような何かちょっと集中的に講習を受けて、啓発活動できるような人を養成する意見も出たと思います。何か学ぶとか、教えられるという提起ではなくて、もう少しちょっとゲーム感覚みたいなもので学ぶ。交通公園みたいなイメージでという意見もありました。そしてさらにその上にもう少し高度というものになると、自治会とか、サークルとかで講習をする。うさちゃんクラブとか、学校での取り組みというのは、ある程度しっかりと講師の方に指導員の方に教えてもらう。</p> <p>そして、警察の取り締まりということがあると思います。それで、もう少し具体的にどんな危険なケースがあるので、こういう啓発の仕方をしたほうがいいのか、内容面に踏み込んで行ってもいいと思います。こんな危険なケースがあったとか、こういうことに気をつけたほうがいいのかと思っているとか、何かそんな啓発される側の感覚でも結構です。特に高齢者の部分は前回とちょっと議論が途中になってしまいましたので、こんな危険な事案があるというので結構です。</p>
メンバー	<p>高齢者のことですが、私の祖父に学校に送ってもらったとき、信号に気付かずそのまま無視してしまったりだとか、最近でも運転しているところを見るとやや危ないところがあったりします。警視庁のほうでも免許の自主返納とかを推進しているようですが、なかなか難しいので、高齢者によく見る媒体として、回覧板であるとか、高齢者と言ってもごく一部だと思うのですが、自主返納をしたほうがいいのかというのは、そういうのもうちょっと促したほうがいいのかと思っています。</p>
コーディネーター	<p>自動車を運転される方です。アクセルとブレーキを踏み間違えてというような話も前回あったと思いますけども、免許の自主返納を呼びかけるとそのあたりはどうでしょうか。</p>
市職員	<p>自主返納というのは、あくまでそれぞれの方の発意によってされる部分で、強制されるわけではないという状況ですから、基本的に高齢者の方、自分で運転していてちょっと「ヒヤリ」「ハッ」として危ないというふうに自覚していただいた方については、確かにそういう発意を考えていただけると。ほかの措置として免許証は身分証明書のかわりになりますので、それにかわるものとして、身分証明になるようなものをかわりにお渡ししてという、そういうような返納を促すような体制づくりも整ってはいると思うのですが、先ほど言いましたように、それぞれが自分の考えで発意をもってやられることについて、促すというところまで踏み込んでいいのかなというところがちょっと悩ましいところです。ただ、交通安全意識を高めていただいて、そういう思いを自分のほうで持っていていただくということについては、大変意義深いことだと思います。</p>
メンバー	<p>メンバーを拝見していると、高齢者に当たるのは、私だけだと思います。私は数年前に顔面麻痺をしまして、後遺症でちょっと左目の視力が出ません。仕事柄、車の運転を制限すればお客さんのところへ行くのが不自由になり、重い資料を抱えて行くケースも多いので、まだ返上というところまでは考えていません。ただ、私としては夜になる</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター	と見にくいので、夜の運転は控えて、何かあったときには妻に運転をしてもらっています。住んでいるところも山奥ですし、車を除いた生活というのは考えられないです。ただ、伊丹市の場合、市バスの無料パスに置き換えているとか、川西市も阪急バスの補助制度があるのですか。乗っているほうの立場からいくと、やはり昼間は不自由がないので、なかなか返上と言うところまでは踏み切れません。
オブザーバー	確かに大事なことです。実際に足がなくなってしまえば困ってしまうわけで交通手段の確保というところですけど、その政策は、川西市の場合はどうでしょうか。
メンバー	阪急バスの助成金は「高齢者のおでかけ促進」という事業になり年間3,000円でバス、タクシーも使えます。兵庫県警のホームページのほうに、免許証を返納するという特典があって、例えば川西はしていませんけども、バス乗車運賃の割引、タクシー、あと温泉とか、宿泊、また商品とか、施設の割引というようなところがあります。阪神間で言いますと、伊丹の市バスは載ってないですけど、阪神バスは半額になる。多いのはどちらかと言うと、神姫バスとか、全但バスとか、淡路交通とか、郡部での路線バスの半額措置というようなところが出ています。あとタクシーでいきますと、阪神地区でも介護タクシーとか、姫路タクシーとか、少し川西の直接的なところはないですけど、少しずつこういった特典も付けながら、高齢者の免許の返納を呼びかけているというのが県下での状況というようなところになります。
市職員	質問ですが、何かいくつか以上になったら免許更新時に講習か何か、チェックじゃないですけども、そういったのがあると聞いたのですが。それは受けられて、その中で「ハッ」として、そういう自覚を持っていただくというような講習なのか、やっぱり「ちょっともうあなたは持っていたら運転危ないですよ」というのを直接的には言うのは難しいと思うんですけども、そういった感じでお伝えするような内容なのか、その辺をちょっと教えていただきたいと思います。
市職員	免許の更新は警察になります。そういった中で、高齢者の方が実技であったり、それから目の検査があったりという中で、視力低下の方とか、動作がスムーズにできない方についてはそういうお話をしているということも聞いたこともあります。自主返納という形では、最近の言葉ですけども、過去にはそういうことで「もうおやめになったらどうですか」ということは言われていました。それ以上のことはなかなか言えないみたいです。
コーディネーター	更新のときに自覚というか、意識していただくということは一定されているということだと思います。その辺はちょっと何かチェックみたいなことができてもいいかもしれないです。もう少し日常的にチェックリストみたいなものがあって、いくつ以上チェックがあったらちょっと大丈夫ですかというような呼びかけをするというのもいいかもしれないかもしれませんけども、どうでしょうか。
メンバー	高齢者の方でも、普段車に乗られている方は自分で意識されることは多いと思います。ちょっとどうしても運転は集中力がいらいます。それよりも私はどちらかと言うと、家の前の道路幅が広がり、今までぱっと渡れるところだった道路が大きく幅が変わっているのに、信号のないところをゆっくりと渡られる高齢者が意外といます。道路をつくることにはなってきますが、どうしても渡りにくいようにつくることは検討されているけども、そのあたりの対策があればいいのではないかと考えています。
市職員	道路をつくる場合、やっぱり信号のあるところを渡っていただきたい。信号のないところであっても、横断歩道を渡っていただきたいというのが基本です。どうしても横断歩道、信号のないところを渡られる方も多いところがあって、横断歩道の事故については結構あります。余談になりますが、事故があったときに、警察のほうと道路管理者のほう

発言者	発言内容等
市職員	<p>うで、事故の検証と言いまして、何で事故が起こったのかということをしかりと現場で検証して、それについて同じような事案で事故が起こらないようにという対策を考える中で「渡っていただいたらちょっとやっぱり危ない」「渡る方は結構いる」というところについては、ハードですけども横断防止柵で横断しにくいような柵を歩道につける対策を行っています。基本的にすべてのところについて横断防止柵をつくっているわけではないですけども「何かあってからでは遅い」とお叱りを受けるかもしれないですけど対応を進めています。</p>
市職員	<p>少し追加させていただきますと、警察のほうも、道路幅が広がっているので、押しボタン式で時間を長くするという交差点をいくつか設けております。それと道路の構造自体が、歩道のある車道と歩道のある道、それから車道だけで白い線で外側線が引いてある歩道という形のものでさせていただいているところがあります。十分な用地がありますと、段差のある歩道形態を取って、且つ柵をつくりまして「横断歩道を勝手に渡ったらいけません」「信号のあるところで渡ってください」「交差点で渡ってください」という目印などもつくるのですが、それをすべてやってしまいますと、商店であるとか、荷物を降ろす、荷物を乗せる、それから個人の住宅に入る入口が必要であるとかいったことで、すべてを覆いかぶせることはできない状況にはあります。</p>
メンバー	<p>道路が1年の間にちょっと広がるということはよくあることだと思うのですが、外に出る方に交通について何か説明などあるのでしょうか。</p>
市職員	<p>高齢者だけでなく、新しく道ができて市街地の中で、細い道ですけども、皆さんがご利用になっている道があります。高齢者に対してお出かけして、精神とも体も元気になってほしいという意味で言っていることだと思います。市のほうもそういうふうな意味で「お出かけしてください」と言うことは言っていますけども、それに対して交通安全啓発事業の中では、お知らせをしているということはないです。</p>
メンバー	<p>ぜひ、ほかの事業と一緒に、交通安全の部分の少し取り入れることによって、日常的に意識化はできるのではないかと思います。</p>
コーディネーター	<p>それはいけそうですか。</p>
市職員	<p>道路を造る場合、警察のほうと交通安全対策も含めて協議をします。その中で、道路を広げたりすることによっていろんな交通安全にかかわる問題について協議をした上で、対策を行っています。安全対策については、ある程度道ができてきてない中、計画段階での話なので、実際にできてからまた状況は違うかもしれませんが、想定される交通安全対策をある程度やりきった上で、道路を広く造っている。当然、道路を供用されてからいろんな諸問題がありますので、それについては適宜、検証はやっていっているつもりです。</p>
コーディネーター	<p>多分、道路を広げるときもそうでしょうけども「おでかけ促進」という別の課になると思うのですが、高齢者の健康のために外出を促進すると、その政策に交通安全のピラ1枚でもいいと思うのですが、意識を高めるようなものをちょっと入れ込むというか、一緒にやっていただくというようなことと思いますが、そんなことはやろうと思えば可能ですか。</p>
市職員	<p>ちょっと悩んでいるところですが、おでかけ促進事業というのは、ちょっと趣旨が違います。基本的には、車のない方、運転できない方とかの利用で、交通公共機関の薄いところについて、駅から自宅までというところでの補助になっています。趣旨が違うので、どうかとは考えていますけど。</p>
コーディネーター オブザーバー	<p>でも、公共交通機関であっても、やっぱり高齢者が対象ですか。 高齢者のおでかけ促進事業が70歳以上の高齢者、川西市にお住まいのすべての高齢</p>

発言者	発言内容等
市職員	<p>者の方に、年間3,000円の交通費助成をします。それと、ここで情報としてつけているのは、市の主催するイベント、いろんな年間を通じてイベントがありますので、それをご利用いただくときに公共交通機関を使ってイベントなり、施設のほうに行ってくださいというところのお知らせをセットで、そういった助成券を送るだけでなく、これを使ってこういったところにもお出かけしてくださいという、そういう部分での情報の促しをしています。担当のほうで少しというところがございましたけれど、これは高齢者の部局との連携で、例えばやみくもに入れるというのではなしに、交通安全週間の時期であれば、それとあわせて啓発なり、先ほど出ていました高齢者の免許証の返納、これはまさに70歳以上の高齢者になりますので、対象になってこようかと思えます。これについては、検討のほうを所管でもいただけるというふうに思います。</p> <p>おでかけ促進事業の受付業務を長寿・介護保険課でやっていますので、そのときに何かお渡しできるものがあればと、少し考えなおしています。</p>
コーディネーター メンバー	<p>はい、検討ください。ほかに、引き続き高齢者で、お願いします。</p> <p>私が30何年間運転をした中で、集約すると3つのグループが危険因子と思います。1つ目は、高齢者、それもちょっと認知症の入ったような方が、もしくは体が不自由な方が横断歩道とか、信号でないところを車が走っているところをゆっくりと渡っている。あれも事故の大きな要因だと思います。運転手がすべて前をきっちり見て走っていればいいですけども、わき見したり、ほかのことを考えていたりというケースもあると思えます。2番目としては、普通の成人の運転者が方向を変更し、車線を変えるときに前後を見ずに、自分だけの世界で方向指示を出さずに曲がってくるとか、割り込んでくるとかいうケースがあります。</p>
コーディネーター	<p>それから、あとは中学生ぐらいの自転車、小学校、中学生ぐらいの自転車がやはり交差点で確認をせずにぱっと入ってきたり、曲がってきたりと、この3つが大きな事故の要因だと思います。特に、横断歩道を渡らないで、普通の道路を渡っている多少認知症気味の方は、いくら啓蒙しても、誰かが付き添いでストップをかけない限りは難しいと思えます。自動車のほうもマナーの問題というが、多分免許を取るときにはきっちり左折優先であるとか、車線を変えるときには手前で方向指示を出してとかいう研修で受けて通ってきた人だと思うのですが、全く忘れてしまって、右折するのが優先で曲がって、車線を自分だけの都合で割り込んできて、急ブレーキをかけないといけない。中学生の自転車もそうだと思うのですが、やっぱり研修なり講習をして聞く2番目と3番目がそうだと思います。1番目の認知症気味の方は何をやっても多分無理だと思います。その辺を踏まえて政策的なことを考えただくと、ただ、私の個人的な経験なので、すべてがすべて皆さんと同じように経験されて同じような意見かどうかわかりませんが、ちょっとそういうことを思いました。だから、やっぱり一番多いのは、成人の運転、このマナーが悪いというところが事故の大きな要因じゃないかと。</p> <p>ここが一番大事且つ難しいということかもしれません。高齢者の特に少し障害というか、元気に動くのが難しいというような方に、そういう課題もあるというご指摘ですけども、いかがでしょうか。前回出た意見なんかもう少し活かしながらできればいいと思うのですが、中学生の自転車、成人の特にマナーの悪い自動車運転者、そして高齢者、特にちょっと心身ともに障害をお持ちの方とかいうところはこういう啓発にちょっと乗りにくいというが、対象になってきにくい人たちなのかもしれません。なかなか難しいわけですが、どうでしょうか。高校生は、学校で、通学時に使っているので、指導されているところもあるという話でしたが、中学生はそういうことができないですか。通学に使わないので、学校ではちょっと取り組みにくいという理解でいいですか。</p>

発言者	発言内容等
市職員	<p>前回、少し話があったときに、課題というのは、中学生のほうに手が回っていないというような話をさせていただいたと思います。なぜ中学生のほうにまだ手がいていないかと言うと、市内の中学校で、自転車通学というのは、今はないというところではない、いってないというところもあると。高校においては、スマホとか、いろいろヘッドホンの問題とか、事故が多発する高校生との接触で事故が発生しやすいというところがあって、川西警察と3校ある公立校の中で、1校だけは指導時間を取っていただき、あとについてはちらしを配布させていただいたというところです。</p>
コーディネーター	<p>中学生は学校で指導というのはしていないということです。一体それはどこでやるのかということになってきますが。</p>
メンバー	<p>中学生でも、猪名川町とか、三田市の場合は、学校で認めた通学に自転車を利用してるところもあるように思います。その場合は、黄色いたすきを掛けて自転車に乗っておられるようです。例えば学校そのものが自転車通学を必要がない、認めてないということは、場合によればある一種の免許的な意味で、通学はもちろん認めないですけども、家で乗るに学校に申請をしてたすきをもらって、しかるべき教育を受けて自転車に乗っていますというようなことを推奨されると、運転しているほうからも安心します。手間と費用とどれほどかかるかわかりませんが、それに対して効果がわかりませんけども。</p>
コーディネーター	<p>それはどういうふうにされているのですか。学校でたすきを渡して、指導を一緒にするという感じですか。</p>
メンバー	<p>推測ですけども、中学校が通学で認めた人に対して、ヘルメットとたすきを使用することで許可をされているのだと思います。</p>
コーディネーター	<p>川西では、高校と同じような扱いというか。</p>
メンバー	<p>ただ、高校の場合、たすきを掛け、ヘルメットを着ているかどうかですけど。私が目にする三田市とか、猪名川町は、ヘルメットを被り、たすきを掛けてというふうな、いわゆる自転車に乗って通学していますよというスタイルをとっていますので、よくわかると思います。</p>
市職員	<p>川西の高校では、高校別にシールを貼って、自転車通学を認めているという状況になります。ただし、ヘルメットとか、たすきというのは、義務づけはないみたいです。話があったように、三田とかで、子どもがヘルメット、たすきでやっておられて、自分の行為でこけても、頭打たないとかいう安全性は高まっております。最近の早くクラブ活動が終わって、そのときでも自転車にたすきがあると、動いている姿がよく見えるというのは、はっきりしております。</p>
コーディネーター	<p>そういうことをちょっと学校にも協力をしてもらって、首をかしげておられますけど難しいですか。それをじゃあ一体どこがどういうふうに通学にアプローチをしていくかということだと思っておりますけども、中学生が自転車に乗るときというのは、どういふときですか。例えば学習塾に行くときとか、部活に行くとき、どこへ一体行くのでしょうか。</p>
市職員	<p>遊びに行くときです。逆に、幼児とか、小学校低学年ぐらいですと、自転車を買ったときに同じくヘルメットを買っていますので、それでないとか出かけたらだめよというようなことも聞いたことがあります。中学生にそこまでできているかと言いますと、中学生はあまりできてないです。</p>
コーディネーター メンバー	<p>ちょっと難しい年頃かなと思います。たすきを掛けるという点もどうでしょうか。 中学生の自転車だけに限らないと思います。先日、井戸知事が兵庫県で独自の自転車保険を創設されるというようなニュースになっていました。こういう機会にもう一度自転車に乗る人のマナー、技術、こういう点を洗い直すということはひょっとして機会に</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター メンバー	<p>なると思います。まだ、構想を打ち上げられたところなので、具体的なことは何もわかりませんが、網を掛けるという意味では、いい機会というふうには思います。</p> <p>保険加入のときに、少し講習のようなことをするとか。</p> <p>前回、キャラクターのこととかを申し上げて、またちょっとインターネット系の話になってしまうのですが、私があったら使いたいと思うのが、LINEのスタンプの交通安全啓発みたいなやつがあったら多分結構使えるじゃないかと思います。「気を付けて行ってきて」とか「スピード出し過ぎだね」とか、そういうのがどうもないみたいなので、親が子どもに言ったりするようなものであったりとか、別にキャラクターがなくてもいいですけど、LINEのスタンプが割と簡単につくれたり、できたりするというのもありますし、無料で配れたりというのもありますし、使い勝手があるのではないかなという、今見ていると結構この飲酒運転は禁止とか、そのまま使えそうな。</p>
オブザーバー	<p>担当部局のほうでは、中学生への働きかけがされてなかったもので、そこについてという課題、これはこれでしていくべきだと思います。前回は資料をいただいた中で、例えば自転車の傷者数と言いますが、自転車の事故は、川西の件数を見るとそんなに伸びてなかったです。24年度が自転車で164件、25年度が157件と、現状維持と言いますが、また子どもの傷者数を見ても、これは子どもというのは、中学生以下というのは、前回説明したので、24年は71件、25年度70件というふうにはあまり増えていない。自転車もそうですし、自転車もこの傷者数の中で、例えば本当に中学生の事故がふえているのか、当然やっていないところには啓発活動が必要と思うのですが、対象者がやはりこの割合の中で、例えば高校生の事故が増えているのであれば、そこに対して啓発する。また、高齢者の事故が増えているのであれば、そこに対しての啓発を少し充実すべきかと。これは私の個人的な実感ですけど、川西は坂が多いですから、どうしても今までは坂のある地域には自転車というのはありませんでした。最近、電動自転車が出てきていますので、高校生も登って来られるのを見えています。今までのバスで来ていた高校生も乗り換えて需要がひよっとしたら増えているのかと。当然その事故の件数も増えているのかと推測です。それと高齢者の方も今まで少ししんどかったのが電動自転車であれば、三輪自転車にも出ているようですので、自転車の傷者数の中で、高校生とか、高齢者の数が増えているようであれば、増えているところに対してのもう少し強化をすべきというふうなところは思うところです。</p>
コーディネーター	<p>そのデータに基づいてということ言えば、前回ちょっと目立ってという部分ということがあまりそれ程ない。原付の死亡事故が多い、少し若干増えているというような感じで、これも全域というのか、川西市内でもかなり地域によって特性が違うということもありますので、もう少しエリアごとにちょっと坂の多いようなエリアと、平坦な市街地とか、何かもう少し細かい分析というか、どうでしょうか。もうちょっと対歩行者なのか、対自動車なのかとか、自転車にしても、何かそんなこともできたらもう少しきめ細かい対策にもなっていく気もします。今後そういうデータももう少しちょっと細かく分析されて、対象者とか、地域とかを少し絞った形で啓発活動をやっていくというようなことをどうでしょうか。</p>
市職員	<p>現状で言いましたら、事故の件数とか、その辺は警察からの情報提供に頼っている部分があります。その中で、警察の情報分析で、地区別というのは、多分抽出されていないと思います。その辺がちょっと市役所のほうに入りにくい状況になっています。ここまで話された内容も理解できますので、警察が統計資料を整理していますから、協議をして情報の整理をしていただくということも考えていかないといけないと思います。</p>
コーディネーター	<p>ぜひ警察のほうとも協力していただいて、やっていただけたらと思います。ほかに、</p>

発言者	発言内容等
メンバー	<p>いかがでしょうか。</p> <p>シールの貼り付けについてですけど、私が高校のときは、自転車通学が許される地域の学生と、許されない近場の学生は歩いてということで、近場の学生が自転車に乗って来ないように判別をするためにシール貼り付けをしていました。特に、事故に対してある程度の安全性を何か持っているものに発行されるというものではなかったので、例えばシールをちょっと目立つように大きくしたりして、地域の人から見てどこの高校の何番がスピードを出し過ぎていたとか、そういうふうに学校に通告してもらえるようにしたほうが、学生もちゃんと運転すると思います。</p>
市職員	<p>市民から何々高校の生徒さんがスピードを出して危ないからということで、私どもの道路管理課のほうから高校のほうに申し出はさせていただいたことはあります。ただ、番号まで特定ということはないですけども、それにあわせてクラブ活動の対外試合をされるときに、能勢口に放置自転車をされています。そういった面についても市民から通報がある場合は連絡しています。</p>
コーディネーター	<p>放置自転車というのは、ちょっと外れてしまうのかもしれないですが、自転車にナンバーが必要だということかもしれませんが、いかがでしょうか。</p>
メンバー	<p>先日、私の友人の子どもに起きた事故ですけども、朝出かけようとしたときに、違法駐車があり、その子がぱっと道路に出て「止まりなさい」とお母さんが言いましたが、4歳なので耳を貸さずに行ってしまった。そうしたら、駐車中の車の横から中学生の自転車が下りてきて、子どもが見えてその中学生はすぐにブレーキをかけたけども、その日雨が降っていて、スリップをしてこけて、こけた中学生にお子さんとぶつかってしまい、お互いにたんこぶと擦り傷ぐらいの程度のけがでした。結局、子どもが飛び出してしまったところにも原因はあるんですけど、中学生の自転車のスピードの出し過ぎというところもあるし、そもそもそこにまず駐車をしていた車の持ち主というところのマナーの問題というのもあるので、それぞれの年代での対策というのがやっぱり必要になってくるのではないかと思います。</p>
コーディネーター	<p>駐車というのは、違法駐車みたいな形ですか。</p>
メンバー	<p>そうです。家の前とかに駐車場から出されて止められていたのか、客が来られていて止められていたのか、住宅地の中に道路端に寄せて止めているような車です。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございます。放置自転車も危険につながるという面もあると思います。交通安全というのは、どこか1つだけでは多分達成できないことだと思うので、そうなるのと違法駐車を取り締まりであるとか、ちょっと交通安全面での呼びかけみたいなのも一緒にやるとか、そういうことになってくるでしょう。</p>
メンバー	<p>家の前の違法駐車は、警察の方が近所から通報があれば、別ですけど、なかなかそこまで取り締まりみたいなことはされないと思います。やっぱりそこは広報して、例えば家の近所に違法駐車をするとこういったことが起こりますというような案内と、そこをどれだけの人が目に留めていただけるかはわからないですけども、そういった方向での案内も効果はあると思います。</p>
コーディネーター	<p>そうですね、看板を立てるとか。</p>
メンバー	<p>放置自転車というのは、どこが管理になるのですか。</p>
市職員	<p>駐輪場にかかってくる話ですけど、駐輪場の管轄は道路管理課でやっております。あわせてその延長線上で、駐輪場の充足率の放置自転車、基本的には道路のほうに放置されるということを伺っておりますので、放置自転車についても道路管理課のほうで所管しております。</p>
メンバー	<p>放置自転車もそうですし、車の駐車もそうですけども、事故の原因になるものだと思</p>

発言者	発言内容等
	<p>います。神戸市だったと思うのですが、自転車の駐輪に関してかなり道路を埋めての駐輪がされている地域がありましてニュースにもなりましたが、役所職員の方の目を印刷して、インパクトのある立て看板を作られていました。交通安全ということを考えていくと、年齢別ももちろんですけど、まちのデザインにもかかわってくる部分というのがずっと話を聞いていて思っていた部分で、川西市の地域にあったデザインを考えるというのは、非常に大切じゃないかと思いました。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございます。デザインというのもすごくいろんな対象というか、幅広くあり得ると思います。さっきのたすきでなくても、例えばちょっと大きなバッチみたいなものを配布するとか、夜光するようなものとか、何かそういうことでもいいのかもしれないです。</p>
メンバー	<p>もしかすると、前に言っていたキャラクターが生きる瞬間かもしれません。学校のカバンはキーホルダーが禁止されていると思います。いくつかのゆるキャラのキーホルダーとかを中学生、高校生が付けたいという意識はあると思います。選べる交通安全にもかかわるようなデザインがあれば、もしかするとまち全体で浸透していけば少しまちづくりにもつながるし、交通安全にとってもいいのかと。</p>
コーディネーター	<p>いかがですか、そんなのどうですか。</p>
市職員	<p>反射材的な自転車に付けるリフレクターは非常に出ています、啓発のときには配布したりします。やはり中学生、高校生に渡る機会がなかなか啓発できてないというのが実態だと思います。私もちょっと中学生とかかわる機会がありますが、きんたくんをつくって中学生がどれぐらい、高校生がどれぐらい喜ぶということを考えれば、もう少し現実的に「それを付けなさい」と、「自転車に付けてください」という形で中学校、高校に配布するとか、そういうことのほうが現実的と思ったりもしました。</p>
コーディネーター	<p>具体的なやり方を検討していただければと思います。そういったものを少し中学で配布することから始めてみるみたいなことは可能ですか。</p>
市職員	<p>全体的に個数がありますから、中学生、高校生にとっては自転車が危ないということを認識すれば、全体の配布個数はあまり変えられない現状ですけども、全体の分を中学生、あるいは高校生に向けてするという事は可能と考えます。</p>
コーディネーター	<p>はい、優先度の高い地域からということで、十分だと思いました。ありがとうございます。標識というのは、どうですか。</p>
市職員	<p>私も自転車の担当をしていますので、こういうニュースなったときにすぐ拝見しました。神戸市は範囲がかなり広く、監視員というところを付けてやっている現状とはまた違ういろんな場所で止められるので、注意できないところに看板でというやり方はありだと思います。ただ一方で、看板が怖いという話もかなり出たみたいで、川西の現状を見れば放置自転車が多いのは能勢口、JR川西池田のところですので、その部分はこの看板を使わなくて対策してもいいと考えています。案としては、よいと思います。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございます。マナーの問題、人の目があるかどうか、人の目を感じるとそういうちょっとマナーに反するようなことをやめようと思う心理を利用しているのだと思います。自転車とか、自動車の運転のマナーというところもかなり問題があるというご指摘もありましたが、そんなところに何かアプローチする方法はありますか。</p>
メンバー	<p>能勢口周辺は学習塾とか多いと思いますが、学習塾との連携と言いますか、代替とかでも出されているのですか。</p>
市職員	<p>放置自転車という観点、交通安全という。</p>
メンバー	<p>そうです交通安全教室の。</p>
市職員	<p>交通安全の観点では、接触したことがないです。放置自転車のほうは、夕方以降、学</p>

発言者	発言内容等
コーディネーター 市職員	<p>習塾に通われる方の放置自転車が多かったので、そういう形で塾に回らしてもらい、啓発に努めていました。それを前提で同じ課の中でやっていますので、交通安全ということで、延長上またそういう啓発、交通安全の啓発をするというのも1つの方法がもしありません。</p> <p>学習塾への啓発というのは、かなり一定の効果があるという感触ですか。</p> <p>実際、学習塾の先生はかなり言ってくれますが、塾の前に駐輪場をつくれてない現状がありますので、生徒は近くて便利な歩道にとめるというのが実態です。啓発してもなかなかうまく塾も苦慮されますし、私らも苦慮しているような状態であります。</p>
コーディネーター 市職員	<p>そもそも駐輪場がないと。ちょっと放置自転車の話になりますが。</p> <p>説明しましたように、歩道上に放置されているというところで、能勢口につきましては、数年前から有料の駐輪機をアステ川西と阪急電鉄の西側など、今後、いくつかの有料駐輪機を設置します。定期的なものについては、一時使用ではなく、定期利用の駐輪場への案内とかということも考えています。</p>
コーディネーター 市職員	<p>駐輪場の整備ということとあわせて呼びかけして、放置自転車をなくすことで、危険は減るところです。駐輪場というのは、スペースが若干足りない状況ですが、それともあるけど使われないような状況ですか。</p> <p>既存の施設で十分に足るということにはなるのですが、より近く、より便利なところにとということで、皆さんがそういう形で放置をされるという状況にあります。それを解消すべく、歩道上に駐輪機を設置してもいいと法律が一部かわりましたので、今のほうが取り組んでいます。</p>
コーディネーター	<p>ありがとうございます。どうしても危ないところはちょっと遠くても駐輪場にとめてもらうように啓発というか、呼びかけをしてもらうということも必要かもしれません。あまり議論ができていないのは、認知症の高齢者の方とか、障害のある方の安全な通行というところですけども、初めて出していただいた論点だと思うので、もし何か問題に感じていることとか、危険とかということがあれば。</p>
メンバー	<p>認知症と言ってもすべてが重篤な方ばかりでなく、初期の予備軍から入って段々と重篤になる。だから、どこら辺の人をもってこういう施策として、対象にするというところは非常に難しいことだと思います。何を整備するにしても認知症の方にルールを言っても軽度の方は通常の判断力があると思います。ある程度、進行すると徘徊も含めて、なかなかマナーで御するというのは無理だと思うので、どう社会として捉えていくのか。だから認知症サポーターがそういうケアをするという機会を増やすとか、外出するときはお手伝いしますというような体制をつくれるかどうか、そこら辺になってくると思います。認知症の方と言っても人格のある方ですからそれなりの接し方をしないと、重篤な方は何を言われて、何をされてもなすがままというケースがあると思います。軽度の方は、わからない段階の方もおられますから、その辺は難しいと思います。車を運転する立場からいくと、危ないなと思う方はそういう歩き方をされているというのがちょっとわかるような気がします。あとは事故の可能性として安全のためにつくっている施策で飛び出し防止坊やと言いますが、結構、運転をする立場からいくとカーブのところに置いてあります。飛び出し坊やに車がカーブしたときにあたりそうになる。それから歩行者の邪魔にもなる。設置を積極的にしていますけども、車を運転する立場からすると、事故の可能性が強いというふうに思います。</p>
コーディネーター	<p>飛び出し坊やがかえって危険ということもありますが、先に認知症の方の問題ですけど、ここは担当課のほうでは、何か問題の認識とか、こういう案件があったとか。</p>

発言者	発言内容等
オブザーバー	<p>交通安全という観点から、当然入ってくると思うのですが、どちらかと言うところはサポートされる方との関係性がありますので、少し福祉の分野での取り扱いのほうがいいと思います。これを地域なり市全体で見守っていくという姿勢は当然交通安全の観点からも必要だと思いますけど、少しそちらのほうの分野での議論になると思います。</p>
コーディネーター	<p>先ほどのおでかけ促進の話ではないですけども、福祉のほうで、もし何か機会があれば、啓発のちらしのようなものを挟んでいただくとか、そんなことでもいいかと思えます。もしくは念頭に置いてという感じです。こういうケースというのは、これから出てくるというか、新聞でも割と事故に遭われるということはお聞きします。</p> <p>では、あとはちょっとどうでしょうか。担当課のほうで、もうちょっとここをちゃんと議論してほしいとか言うことがあれば。</p>
市職員	<p>数回に渡って議論をいただいて、一番初めに定数の問題であるとか、マンパワーの問題であるとか、それから、行政が交通安全啓発事業というものを取り組む上で、幼児教育から始まって、どこまでを1つの課で補っていいのかというのは、疑問にも思っています。意見をいただいた件については、必要なことであろうというふうに考えておりますけども、今後進めていく上で、どこまでできて、これは必ずしていかないというところはあるかと思えます。あれもこれもということに、予算の配分であったり、人の問題であったりするところがありますので、1つ1つ意見をいただいているものについてはよくわかります。すべてやり遂げたいと思うのですが、少しその点について、市の役割というところを教えていただければ、参考になると思います。</p>
コーディネーター	<p>市として優先的に取り組んでいくべきところがどこかというあたりですか。今までは割と少ないけれども、かなり濃い形でやっていたわけですが、ちょっと広げましょうというような話もありましたけども、どうでしょうか。指導員による講習というのを今の体制がもう少しふやして続けていきたいということかと。担当課の問題提起としては、そういうことだったというと思えますけども、そこに時間を割くと、当然ほかのことはちょっと後回しになってしまうということもありますので、どうでしょう。率直な意見をお願いします。</p>
メンバー	<p>交通安全の啓発と言っても国全体に共通する事項と川西固有のケースとあります。この辺を分けて全国で共通するような交通安全運動というのは、総務省に任して、川西固有の事情に基づく安全対策というのが特化していただく。例えば、道路のつくり方にしても国道であれば、全国共通でやられる。全国と地方と分けて対策を今後も進めていただければいいと思います。</p>
コーディネーター	<p>動画とか、漫画とかいうのもありますし、川西固有のこういう地域でこのようなことがあったとか、ここはこうだとか言うことに使えないわけが全然ないので、注視として川西と特有の問題にきちんとアプローチしたほうがいいということで、どうでしょう。</p>
メンバー	<p>コミュニティが行政と一緒に防止をしていく。我々も被害者、加害者といつなるかわかりませんので、他人のこととは思わずに、取り組むのが必要だと思います。そういうのが地域的な事情も加味して運動ができると思います。具体的な話はなかなかできませんけども。</p>
メンバー	<p>私の個人的な意見ですけども、3つ事業ディスカッションをさせていただいた中で、正直この交通安全が一番難しかったです。もう既に完成度が高いといいますが、かなりいろいろお伺いしても「必ずこうしています」というふうな返答し、「こういうふうにしてます」と具体的に取り組んでいます。いろいろ議論とか意見を出ささせていただいたものの、もうこれ以上することはないと正直思いながら話させていただいています。ただ、まだすることはあるじゃないか、できることがあるじゃないかということで、この事業</p>

発言者	発言内容等
メンバー	<p>に出していると思います。そういった意味で言えば、交通安全の啓発というのは、僕らも免許の更新でビデオを見るたびに、「わあ」と思って認識します。それ以外日常のときはあまり思わないです。非日常が日常になってしまえば啓発に全然ならないと思うので、何でもやっていただければ、それが交通安全啓発という部分ではプラスになると思います。今やっていただいているのも十分だと思いますけども、加えてやられるにしても、どれから取り組んでいただいても全然いいというくらい今しっかりやっていただいているのではないかというのは、個人的に思っています。</p> <p>幼児とかのグループに対してしかちょっと使えないとは思いますが、うさちゃんクラブをされていて、多分人数の制限があり、広報見てお申込みいただいた方が連続講座で受けられるという形になると思います。例えば、子育て家庭支援課の下には、まちの子育て広場であったり、川西市の自主子育てサークルという形で、月に何回か未就園のお母さんたちと親子がみんなでお話会をするサークルもあるので、その自主サークルの代表の人たちが集まって、年2回ぐらい会合を開いています。うさちゃんクラブをこれ以上ふやすというのもなかなか難しいと思うので、会合のときに少し子育て家庭支援課と連携して時間を取ってもらい、交通安全の話とかをまず代表の方にお伝えいただければ、その話をそれぞれ自分たちがやっているサークルのほうに持って行って話をするというところで、少しでもメンバーの中でもっとちゃんと詳しく聞きたいという方はうさちゃんクラブの案内をお渡しすることも可能だと思います。</p>
コーディネーター	<p>発言のとおりだと思うのですが、サークルとか、塾とか、自転車屋さんとかは既にやられていることもたくさんあると思いますけど、日常生活の中でその交通にかかわるところに皆さんがこれまでされている啓発のネタを持って行くというか、持ち込むというのをもう少し広げていく、今のような子育てのサークルとか、おでかけ促進もそうだと思いますし、ちょっと日常生活のいろんな場面に入り込んでいく、そういうアプローチがいいということなのかなと思いました。</p>
メンバー	<p>優先順位に関しては、シールとか大きく目立つようにしたりして、地域で監視できるような体制をつくってあげれば、中高生に関してはそんなにいらな思っていて、どちらかと言うと、注意してくれる存在がない成人とか、高齢者とかに、もうちょっと目を向けるべきなんじゃないかなというふうに思いました。</p>
コーディネーター	<p>交通安全啓発事業については、このあたりでまとめたいと思いますが、よろしいでしょうか。ありがとうございました。</p>